

## 2018 春季生活闘争 北海道ブロック女性会議報告

11月25日(土) ホテル札幌ガーデンパレスにおいて2018 春季生活闘争北海道ブロック女性会議が開催されました。この会議は連合本部主催で、春季生活闘争における男女平等課題、男女平等参画の進捗状況などについての学習と意見交換を目的として開催されています。今回は連合本部から3名、連合北海道男女平等局・女性委員会から11名、全道各地から8産別3地区19名が参加しました。

冒頭、連合北海道女性委員会の山田悦子委員長からは秋元札幌市長主導のもとで行われている「さっぽろ女性応援会議」の報告として、女性の活躍に関する企業の動向、経営の課題、特に企業の人手不足の問題と女性の働くこと・働き続けることに関する課題について触れ「女性が働き続けるためにはより柔軟な対応がまだまだ必要である。」と挨拶しました。



連合本部 山本副事務局長からは「2020年まであと2年。連合第4次男女平等参画推進計画目標では意思決定機関への参画率を30%とした目標であるが、機関会議等では16%程度しかない。しっかりと危機感をもって進めてほしい」と挨拶されました。



本部からの提起では、まず、総合男女・雇用平等局の佐藤太郎部員から、「男女平等課題とその背景にある社会の実情、性的指向及び性自認に関する差別禁止に向けた取り組みガイドライン」についての説明がありました。近年ではいわゆる「LGBT」などの話題も耳にするようになり組合として取り組んでいる話も多くなってきています。佐藤さんからガイドラインに沿って説明がされましたが、取り組むことよりもまずは

“知ることが大事”であるとお話されました。性的指向及び性自認に関する課題についてはまずは基本的なことをより多くの方に理解していただき課題を共有することが最も重要であると感じました。

富山男女平等局長からは2018 春季生活闘争における男女平等課題とした雇用における男女平等に関する調査、非正規雇用で働く女性に関する調査結果をもとに進捗状況が伝えられ、2018 春季生活闘争に向けた男女平等課題についての取り組み(素案)では、現状把握や分析をしっかりと行い、ガイドラインなども活用しながらより積極的な取り組みをおこなっていくことを確認しました。

各構成組織、産別報告では活発に職場集会や各種セミナーを開催している内容について広告がされた一方で女性委員の担い手不足や若年層の参加率の減少していることの問題が多くあげられていました。今一度、男女平等課題の重要性や組織の必要性を考える必要があると思います。



左から北教組 山本さん、小林さん、札幌地区連合 鳥丸さん、UAゼンセン 澤登さん、自治労 大浦さん、全労金 大江さん、上杉さん、網走地協 白土さん、国公連合 齋藤さん。



最後に山本副事務局長より「女性が働きやすい職場はみんなが働きやすい職場である。法の整備は重要であるが労働者に寄り添いひとり一人の意見を聞くことが大切である。」と伝えられ会議を終了しました。